資料2－1

釧路市立阿寒小学校

（開校　明治三十四年四月）

阿寒町史（昭和四十一年刊・七七四ページ以降）によれば、明治二十九年五月富山県新川郡から北海道に渡った武限作平は、明治三十年四月滝川源治郎ら四十三戸二八八名を引率して舌辛原野に移住、さらに翌三十一年には愛知県より安藤右衛門らが、また新潟県より今村幾太郎らが来住した。同年十二月には、下雪裡より阿寒戸長役場が舌辛十五線三十五番に移転され、舌辛の戸数は急激に増加し、ここに開拓者の子弟の教育の必要が叫ばれるようになった。こうして、阿寒町の学校教育の先駆として、明治三十四年四月、修業年限四か年の舌辛簡易教育所が成立したが、これが本町における最初の学校であり、現在の阿寒小学校である。

阿寒小学校開校百年記念誌「百年の譜」には、「学校のはじまり」と題して、草創期の学校や当時の子供たち様子が書かれている。

沿革をたどる。

明治三四年　四月　舌辛簡易教育所として開校、修業年限四年、児童数二七名

「（前略）初めて出来た学校ということで、舌辛の住民すべてが大喜びしたとの事である。この教育所の最初の先生は種田十郎先生一人で学年は四年生まで、生徒数は男子二二名、女子五名合計二七名、小さな校舎の一つの教室で勉強するという様子だった。明治三十五年の第一回卒業生は、木下あいさん一名だった」

「明治三十六年、オトンベツ沢に炭鉱が出来て人口が増え、児童数も六四名になったが、先生は一人のままだった」

三七年　四月　補習科を併置、五・六年生　七八名

「この年の卒業生は八名だったが、明治二十三年生まれから二十七年生まれまでで年齢差四歳の人たちが一緒であった。

三九年　三月　舌辛尋常小学校と改称、二学級　九六名

「翌明治四十年には校舎を新築したが、新校舎は四三九平方メートル（一三三坪）、建築費は三千円かかり、その半分は寄附でまかなわれた、寄附をする人も集める人も大変苦労したという」

四四年　四月　高等科を併置、舌辛尋常高等小学校となる。

「この頃までは、学校が出来ても学校から遠い子や、家の手伝いが忙しく学校に通えない子供もいたが、明治四十一年、義務教育六年となり、全ての子供が通うことになり、これまでの補習科は廃止、児童数は一七六名（四学級）である」

「学校までの道路は、楡の大木の林の中の一本道で、昼でも薄暗く、ぬかるんだ道だった。

子供たちは男子も女子も着物を着、下駄か草履を履き、教科書を風呂敷に包んで背負って通学していた。雨の日は油紙をかぶったり『みの』を着たりして通学し、学校に着くとずぶぬれで、震えながら勉強した。冬の通学には『刺し子』のタビを履いていたが、学校に着く頃にはカチンカチンに凍ってしまい、教室の薪ストーブでは、すき間だらけでとても寒く、凍ったタビもなかなか乾かず、それを履いて帰ったとのことである」

（前掲書二一頁）

また、大正十五年卒業の森口　智代さん（阿寒町新町）が「思い出の手記」を残されているで、紹介したい。（原文のまま）

「（前略）私、大正の初めに大楽毛に生まれ、学校がなく、二年生の時、親類の家から学ばせていただき、その後、六年生頃当地に移り住み通学させていただき、その頃当地には電気も水道もない時代のようでした。入学中グランド作りにみんなで木の根を掘り起こしたり、学校横の阿寒川の急流をプール替わりにしておぼれそうになったり、時には、朝お弁当を暖めようと急いで登校し、ストーブの下に入れた時のことなど懐かしく思い出します。（後略）」

（前掲書　二三頁）

昭和一二年　八月　鶴居村の分村により阿寒村立阿寒尋常高等小学校となる。

一五年一一月　校章が制定される。

二二年　四月　阿寒村立阿寒小学校と改称

二三年　三月　校歌が制定される。

昭和三二年　一月　町制施行により、阿寒町立阿寒小学校となる。

平成一七年一〇月　釧路市・音別町との合併により、釧路市立阿寒小学校と改称する。

教育目標

正しく　強く
優しく　清く

目標の趣旨

校歌の中にうたいあげているこのことばを朝夕愛唱の中に自然な浸透を図り、あわせて学校・学級経営上の中核とする。

校章と校章について

・昭和十五年の開校四十周年を記念して制定され、以後数度変更されて、昭和四十年十一月十三日新校舎新築、開校六十五周年を記念して校旗を作成する際、現在のデザインに固定した。

地域の象徴とも言うべき阿寒富士を望みながら登校する児童に、不動の信念と清らかな心、鈴蘭のような優しさと清らかに育ってほしいという願いをこめてデザイン化されたものである。

校歌の制定

校歌は昭和二十二年三月に制定された。**百田　宗治**作詞、**千葉　日出城**作曲による作品で、作詞者である百田宗治氏の直筆の歌詞が残されている。また、この校歌には、教育目標にある「正しく、強く、優しく、清く」が歌詞にこめられており、教育目標と校歌との関連が明確になされている。

昭和二十五年十一月には、開校五十周年を記念して「祝歌」が作られた。残念ながら楽譜は手元に無く、歌詞のみを紹介する。

「開校五十周年祝歌」　菅原　覚也作詞、石田　良男作曲

一　穫りの秋の空すみて　白菊かおる学び舎に
　故き歩みをたたえつつ　よろこびあふる今日のわれ
　祝えや歌え　はらからよ　開校ここに　五十年

（紙幅の関係で二番は省略）

阿寒小学校は開校百七年となり、校歌にあるように「ただしく強く伸びてゆく」「やさしく　きよく生いそだつ」みんなの学校として更なる発展が期待されている。

参考資料　阿寒町史（昭和四十一年十月十六日、阿寒町）
　阿寒小学校開校百周年記念誌「百年の譜」

（平成十三年二月）

阿寒小学校 校歌

百田 宗治 作詞
千葉日出城作曲



阿寒小学校 校歌

1

かわらぬ すがた、
朝夕の 姿よい、
阿寒富士、
そらに そびえる
雪に きたえた ぼくたちが、
ただしく、つよく、のびて ゆく、
みんなの 学校、
阿寒校。

2

よごれぬ いろの うつくしさ、
かおり ゆかしい すいらんの
花を こころに
やさしく、 咲いてだつ
みんなの 学校、
阿寒校。

百田 宗治 作

「歌詞」作詞者 百田 宗治氏 直筆